

# 水害のためのBCPと防災情報システム

学習時間

合計約 **4** 時間

対象者

入門  
レベル初級  
レベル中級  
レベル発展  
レベル

開催場所

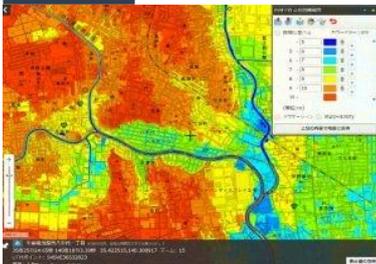
貴社指定場所  
(応相談)

## 地図や様々なデータ、防災情報システムの活用について学び、考える

2022年から高校では地理（地理総合）が必修科目となり、この中で防災教育や地理情報システム（GIS）を学ぶこととなりました。このように地理空間情報を体系的に学び、地図を使って身の回りの情報を空間的に把握し、防災に役立てることは重要です。

前半は地図と様々なデータの活用の仕方を学びます。後半は、防災システムに表示される情報がどのように収集され、そのとき、自然環境にさらされるシステムではどのようなことに留意して設計が行われているかを学びます。最後に、防災情報システムから得られる情報をBCP（事業継続計画）にどのように活用するかを考えます。

### 特徴 1



地理情報システムの利用法を基礎から学べます

### 特徴 2



身近な河川・都市の水害対策の仕組みを学べます

### 特徴 3



災害対策に利用されているIT技術を学べます

### 特徴 4



BCPについて一緒に考えましょう

## 講師プロフィール



### 小林 亘

東京電機大学研究推進社会連携センター  
総合研究所・特別専任教授

1984年、建設省（現国土交通省）入省。  
1986年、小貝川決壊時を関東地方建設局河川部にて、2000年東海豪雨を中部地方整備局河川部にて経験し、近畿地方整備局復興事業調整官を経て、2011年東日本大震災を内閣府防災にて経験した。2002年から2005年まで（一財）河川情報センターにて、情報技術システム部長として統一河川情報システムを設計、開発。2014年4月から東京電機大学。

講師についてもっと詳しく /

<https://researchmap.jp/1248163264>



# プログラム

1. はじめに	
2. 地図と地理情報システム	
(1)	地理情報システム（GIS）を用いた地形、土地利用の判読方法
(2)	地図上に表示するためのオープンデータの入手方法
3. 都市と水害	
(1)	都市と水害の歴史
(2)	様々な水害対策の方法とその利点及び弊害
4. 防災のための情報通信システム	
(1)	災害の予見
(2)	発生の検知
(3)	応急対応
(4)	情報通信システムが復旧において果たす役割
(5)	情報通信システムによる社会的な課題の解決の経緯や効果
5. BCPと防災情報システム	
(1)	防災情報システムを活用したBCPの作成について（少人数であればワークショップ形式も可能）

本講義内容・時間をご提案です。

実際には、ご希望をうかがった上で、内容や時間など御社に最適なプログラムとなるようカスタマイズいたします。

ご質問・お申し込みは、お気軽に担当者または右記窓口までご連絡ください。

## お問い合わせ窓口

**東京電機大学 リスキリング事務局**  
Eメール：information-tdudtec@jim.dendai.ac.jp  
電話：03-5284-5202（学長室内）  
（3営業日を目安にご連絡いたします）